

令和4年度高梁・新見地域認知症疾患医療センター地域連携会議 高梁部会（第1回）

日時 2022年8月29日 13:30～15:30

オンラインにて開催

参加者：21名

テーマ：

「診断後の空白期間」に私たちができることは何か？～映画の事例をもとに考える～

今回の研修会は、介護・医療従事者を対象に ZOOM を用いて開催しました。

研修内容として、認知症の当事者と家族を扱った映画を用いてグループワークを行いました。開会の挨拶を部会長 松浦先生よりいただき、まずは映画を15分程度（※1）参加者の方々に観ていただいた後、小グループに分かれグループワークを行い、発表をしました。後半では30分程度（※2）観た後に再度グループワークをし、発表を行いました。最後に全体のまとめを岡山県介護支援専門員協会理事 草野さんよりいただいた後、閉会の挨拶を高梁市地域包括支援センター所長 内岡さんよりいただき閉幕となりました。

※1…認知症当事者の BPSD が激しい時期

※2…当事者が認知症であると診断されてから担当者会議まで

グループワークではたくさんの意見が交わされました。家族の目線で描かれた作品ということもあり、家族と一緒に過ごす当事者の穏やかな様子を見て「自宅で一緒に生活を続けてもらいたい」と感じ、突然激しく怒り出す本人の様子に支援者の立場として「施設入所を考える必要があるのではないか」と考え、理想と現実のギャップに悩む場面もありました。また、全体で共通して多職種での連携をしっかりと行っていくことの大切さが挙げられていました。「当事者も支援者も困ったときにどこへ相談すればいいのか分からないと感ずることがあるのではないか」という意見から、それぞれの職種でできることや得意分野を周知し、ケースを抱え込まないよう日頃から情報共有を意識すべきといった声も挙がっていました。

今回、多くの方の協力のもとリモートでの研修会を開催することができました。ありがとうございました。これからも多くの方に参加していただけるよう試行錯誤しながら続けていきますので、今後ともよろしくお願いたします。



各施設より Zoom で参加されている様子